

「本物を知る旅」
～ イタリア・フランス～

札幌国際大学短期大学部
総合生活キャリア学科
金澤 菜津美

今回の旅の目的 …「本物志向に触れてくる」

この目的を設定した背景には、将来の夢が大きく関係しております。

ウエディングプランナーになり、新郎新婦が望むお二人らしい結婚式をお手伝いさせていただきたいという夢を持っており、私は春から創和プロジェクト株式会社に入社致します。弊社では、ヨーロッパの正式なチャペル挙式や本来のアットホームなパーティーを目指しております。そこで扱われているウエディングドレスは、一人の花嫁のために一から手作りするヨーロッパの伝統を意識したシルクのインポートドレスです。家具、壁材、床材に至ってもイタリアの建築家の綿密な設計の下に選ばれた、輸入されたものであることが大きな特徴であります。私はこのような「本物」を日本に広めたいという会社の想いに感動を受けました、そしてこれから自分もその一員になると考えたときに、本物がある場所（イタリア・フランス）へ足を運び、自分自身の目で見てみたいと強く思ったのです。そして、実際に4泊6日（2月13日～2月18日）一人で2か国を巡って参りました。

本当にあつという間のひとときでしたが、私の人生に大きな変化を与えてくれた旅となりました。まるで夢を見ていたような感覚に陥り、今でも思い出すたびに充実した気持ちになります。スケジュールが多忙で、ゆっくり観光できたわけではないですが、短い間に一つでも多く感動を味わおうと沢山歩いた旅でした。一人でイタリアとフランスを歩いたということは、私の自信になっています。

初めて自分の甘えに気づき、どれだけ小さい世界で生きてきたのかということを感じ知らされました。人の厳しさや、反対に優しさにも多く触れ、改めて帰国したときにこの旅行を許してくれた家族と先生方に感謝しなければならないと思いました。20歳という節目の年に海外に行くことが出来て本当に良かったです。また何年後かに同じ場所に訪れたとき、その時はまた違った視点で感動が溢れることでしょう。その日を楽しみにして、この素晴らしい経験を活かして新社会人として頑張りたいと思います。

【1日目】2月13日(火) 天気 晴れ

移動 東京(成田空港)～イタリア(フィウミチーノ空港)

- ・新千歳空港から成田空港まで移動
- ・現地時間20時頃にローマ市内に到着
- ・ホテル(アクロポリ)に宿泊

食事

- ・夕食(カルボナーラ€7)



— 感じたこと —

- ・初めての国際線ということもあり、無事に機内に乗れるか不安でした。機内に乗り込んでからも、搭乗客も添乗員も外国人ばかりで、これから一人で帰ってこなければいけないと考えると緊張と不安で先のことが考えられませんでした。しかし、到着してからは空気がやはり違って感じ見るものすべてが初めてで、空港を降りるまで不安だった気持ちがその時には無くなりわくわくしていました。
- ・チェックインしたホテルは、2つ星で少し狭く古い内装でした。しかし、物自体は比較的清潔で過ごしやすかったです。

✦幸運ポイント

機内で席が隣だった人が偶然日本人の方で、到着後カルボナーラの美味しいお店に連れて行ってくださった。
⇒別府さんという20代後半の男性の方。元々一人旅が好きな方で、イタリアには5度ほど観光に来たことがあるという頼もしい方でした。日本と本場イタリアのカルボナーラの違いやおすすめの観光スポット、さらには観光時の注意点まで親切に教えてくださいました。入国の際も別府さんのおかげでスムーズに通ることが出来ました。

— 写真で振り返る —



【2日目】2月14日（水）曇りのち晴れ
イタリア一日自由行動

見学

- ・セントポールズ・ウィズインザ・ウォールズ教会
- ・コロッセオ

食事

- ・朝食（カプチーノ・ヨーグルト・クロワッサン€6）
- ・昼食（マルゲリータ・イチゴのカクテル・ドルチェ€20）
- ・夕食なし

— 感じたこと —

- ・朝がすごく優雅に感じられました。教会の鐘の音が響き、車もそれほど多く走っておらず、朝の空気もとても気持ちの良いものでした。しかし、小雨が降っていて、まだまだ肌寒かったです。

- ・イタリアに来て新たに知ったこと、“イタリア人は朝しかカプチーノを飲まない”ということです。こちらの情報も別府さんに教えていただきました。私もイタリア人の朝を体験してみるべく、内装が可愛らしいということで下の画像のお店に向かいました。クロワッサンはしっとりとしており、カプチーノも程よい苦さでとても美味しかったです。続々と朝食を買い求めるお客さんと会話を楽しんで過ごしていらしたカフェの雰囲気がとても気に入りました。



- ・ローマの観光バスがとても充実していると感じました。これがイタリアに行きやすい・また行きたいと感じるようになった要因です。

ローマ観光バス

観光客が多く集まる観光名所から 10 分おきにバスが出ており、約 30 分かけてローマを一周します。1 日券を使うと乗り放題です。日本語の音声ガイドも付いているため景色を見るだけでも充分楽しむことが出来ました。

値段：24 時間有効券€28



・セントポールズ・ウィズインザ・ウォールズ教会



○カトリック教国のイタリアには珍しい、プロテスタント系の教会。19世紀末、新時代のシンボルとして、古都ローマの中心地に誕生した。

・縞模様が特徴的で、天井が高かった。パイプオルガンの重厚な音色と、ステンドグラスがとても綺麗でした。ロマネスク様式というアーチ型の造りが素敵だと思いました。(撮影 OK)



・コロッセオ



○大きき長さ 188m、幅 156m、高さ 84mで、 5万人という収容人数を誇る円形競技場。西暦 70～80 年と 10 年がかりで建設。構造に使用されている素材は火山灰を利用したコンクリートブロック。力学的に安定しているため鉄筋、鉄骨を使用せずとも現在までこの円筒形を維持しています。

・貴重な一日を中コロッセオで過ごしてしまうほどコロッセオに魅せられました。大きさに圧倒され、本物を目の前に立ち尽くしていました。幸運にもさほど混雑していなかったため、スムーズにコロッセオ内に入場することが出来ました。中も急な階段や山積みになっていた石があり、4階建てでそれぞれ造りが違うことを目で見て感じました。円形でデザインが複雑なコロッセオを本当に人間の手で作ったのかと考えると、とても感動しました。

そして時にはこのコロッセウムに水を張り、船を浮かべ模擬海戦のように処刑を待つ身の男たちを戦わせたというエピソードを思い出しながら見て回りました。残酷ではありながらも、水のない場所に海のように大量に水を張ろうと考える古代ローマ人はなんだかロマンがあるように思いました。水が豊富に手に入れることが出来るイタリアの裕福さも感じ取られました。

そんなコロッセオは、私の感性に大きく響いた建物でした。



【3日目】2月15日（木）晴れ

イタリア半日自由行動 ～ フランスへ移動

見学

- ・サンピエトロ大聖堂
- ・トレヴィの泉
- ・スペイン広場

食事

- ・ピザ（€3）
- ・ジェラート（マンゴー・ミント€2.5）

－ 感じたこと －

- ・観光バスのおかげもあり、観光名所同士の距離感がとても近いというように感じました。観光バスは本当におすすめです。
- ・サンピエトロ大聖堂
私が2番目に衝撃を受けた建物です。バチカン市国全体では、ミニチュアハウスの街に踏み入ったような感覚になりました。通りの一番奥に大きく佇んでいた大聖堂の周りを140体以上の彫刻が囲むその姿はとても美しかったです。行列ができており、残りの観光時間も限られていたため外見を眺めるのみではありましたが本当に圧巻でした。いつか中に入って、美術品を見たいです。
- ・トレヴィの泉&スペイン広場
またローマに帰ってこられますように、という願いを込めてコインを投げ入れました。水の音が心地よかったです。す

ぐ横にあるジェラート屋さんのジェラートも濃厚で美味しかったです。スペイン広場では、ここでローマの休日が撮影されていたのかと感じながら一番上まで登りました。あたりを一望してみて大聖堂以外高いビル・建物はなく、一つ一つのデザイン性が高く本当に素敵な街だと思いました。

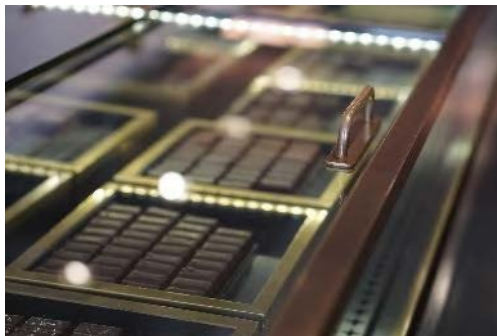


【3日目】2月15日（木）晴れ

フランス1日自由行動

ブーケ作り体験

高級住宅街の1角に佇む花屋「ローズバット」。13時から17時の間にブーケレッスンと街案内をしていただきました。日本人観光客がなかなか訪れないけれども、有名な芸術家などが足しげく通ったカフェやレストラン。他のお花屋さんのディスプレイを見て日本とフランスのお花屋さんの違いなどを教えていただきました。



私がローズバットや、その他のお花屋さんを見てみて感じたことがありました。それは“空気が澄んでいる”ということです。日本にいる時もお花屋さんにはよく立ち寄ります。しかし、どこか窮屈に思うことが多かったです。そう感じるのはお花の量でした。普通のお花屋さんであれば、お客様の要望に合ったものを用意するため、豊富な種類の花を置いています。そのことがお花がたくさんありすぎてお花同士の呼吸がうまく出来ていないように感じてしまう原因にもなっていたのです。その体験談も含め違いを伺ってみると、斎藤さんが答えてくださいました。

～ 仏と日本のお花屋さんの違い ～

○ディスプレイの仕方

日本 ⇒ お花の種類ごと

フランス ⇒ 色ごと



白いお花のコーナー、赤いお花のコーナーというように、花の色ごとにディスプレイすることでお店全体に統一感が生まれ窮屈に感じない、空気が澄んで感じられるそうです。

さらに「ローズバット」オリジナルの考え方も教えていただきました。

～ローズバットならではの想い～

「自分が気に入った花だけしか置かないから、出来上がるブーケは全部自分の好きなもの」

このお店では、オーナーのヴァンサン・レソールさんが、その時期に咲く自分が綺麗だと思う気に入った花しか置かないとおっしゃっていました。

実際に見てみると、お花屋さんなのにお花の数は10種類もなかったように思います。ブーケ自体も2、3種類のお花で作ります。一見寂しいようにも思えますが、数種類のお花でエレガントに見せるブーケがローズの魅力だそうです。そこに

訪れるお客さんも予算以外はすべてオーダーメイドでヴァンサンさんのお花を求めにやってくるのだそうです。私はこのようなお話を伺い、自分自身もこのように好きなものに囲まれながら楽しんで仕事が出来たらいいなと思いました。ここにきて、仕事への価値観にも変化をもたらされるとは思ってもみませんでした。

私が作ったブーケは基本的な丸形のものです。

初めは茎についている余分な葉を落とす作業に入り、それから実際に束ねていきました。斎藤由美さんが求める美しいブーケとは「360度どの角度から見ても綺麗」というものです。私も1時間真剣に取り組みました。



作ってみて、お花にだんだん愛着が湧いてきました。
しかし1回ではさすがにコツをつかむことはできな
かったため、またフランスに行ってレッスンを受ける
という新たな目標ができた旅でもありました。

～完～

